

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



二 圭 田 須 兼 編 輯 人 行 發
市 田 上 縣 野 長 所 行 發
校 學 門 專 絲 蠶 田 上 所 行 發
會 町 縣 南 市 野 長 所 刷 印
社 會 式 株 關 新 日 每 濃 信

巡視秋山義行翁

石倉彫石工人

金を得れば富み權を得れば威たり。富者は人に先んじ危きより免れ生命すら買ふ。權威者は人を制し益を收め名聲をも聚む。世人擧げて富者たり權威者たるを之れ希ふは眞に無理ならぬことである。曾て或る人勇悍に學生に諭して曰く、人生に最も尊重すべきは金と權とであると。

當時人皆吃驚し擧げざるはなしと思つた自分は未だ若かつた。今にして廣く見渡せば外に金、權を超越せる如く見せ、内心只管之れを求むるが常ではないか。曩に學生を諭した先生は案外正直者であつたのに再び驚く。

我が秋山翁は富者にもあらず權力者にも非ず、故に所謂世上の成功者ではない。唯々唯の人に過ぎなかつた。翁は元上田藩の者、本校創立當時來つて巡視となり、勤続十年終に病を病むで大正九年二月廿一日歿したのである。行年六十八歳上田市本陽寺墓地下に永眠して居る。此の一巡視の爲めに特に記念碑を建設し

て學校に寄贈した其の所以を理解しがたく思ふ者もあらうかと想像する。故に聊か秋山翁を紹介するの必要を感じるのである。

山本三六郎著
化學純絹絲の工業的完成
伊太利蠶絲絹業の現況
伊太利蠶絲絹業の衰退原因と其の修正
菅原勇治著
蠶絲業法規要論
市田上縣野長
會 究 研 學 科 絲 蠶 所 行 發
(振替長野0413番)

翁は至誠の人、其の至誠たるや命懸けのものであつた。其れが秋山翁の身上であり本校の寶であつたと観る。

創立當時は數年引續き建築工事が盛んなるものであつた。土工や大工左官など幾十人働き、構内に出入する人もまた從つて頻繁であつた。各職人の仕事が關係的であるだけに、衝突喧嘩亂暴の絶えた日はない。放縱で興奮し易い彼等には學校の規則など眼中にない。入る可らざる所に闖入したり、學校の器物を無斷借用して放置したり、所を選ばず用を便したり、日々校擧すべからざるものであつた。工事監督の眼の届かぬ所が則ち巡視達の苦しい所であつた。秩序を守り火災盜難を防ぐ事が巡視の任務であり、之れが遂行に熱烈であつた秋山翁は勢ひ

職人達には五月蠅い厄介爺であつたに相違ない。彼等の厄介感は何時の間にか反感にまで向上してしまひ、遂に行く所まで行かなければ納まらなくなつた。血氣の職工數人は翁を追つ取り圍むで打つて懸らうとし、翁は愛用の弓の片れを以て身を構へ將に眞活劇が演ぜられやうとする刹那青くなつて飛んで來たのは下請負ひの親方であつた。勿論活劇は惜くも停止である。親方は手を揉みながら翁に陳謝し職工連を引き離した。恰も事なきが如く弩々弓片を手扱むで去る翁を省みてから親方は血氣連を戒めたのであつた。お前達に怪我がなく済むで仕合せと言ふものだ。あの様に老人に見えても有名の武術の達人であるぞ。お前等十人懸つても問題にならぬ。一体お前達の方が悪い、命が惜くば手向ひするな。驚いたのは職工連である。最前身構への物凄さを見た上の話しだから一も二もなく承伏してしまつた、其れから後の取締りには甚だ面倒が無くなり、最も有り難く感じたものは工事監督の人達であつた筈である。

創立當時の本校職員は殆ど三十歳前後の者計りと言ふ程若かつた。であるから常に元氣が洩溢し血氣と朝氣とに燃え盛つて居た丈けに議論に於て體力に於て機會ある毎に華を咲かせなければやまなかつた。學生も備人も外來職工すら一種の靈的威壓を感じて居たらしい。其の筈である、相撲では千曲河畔に村の青年を全部投げ飛ばし、擊劍柔道は勿論胸相撲でも附近之れに抗敵するものがない。拳骨で板を叩き割り、焼火箸を平手で扱くなどに至つては人をして嘔然たらしめたものである。斯くの如き教職員の内には雇員備人の存在すら甚だ認識不足と言ふ有様であつて、其の堂々たる一種の偉風には靡かざるなしの概があつた。従つて時に誤つては些細の規定違反の行爲なきにしも非ずでも多くの雇員備人は之れを回避し敬遠の態度を持せるものゝ如しであつた。此處に一人秋山巡視あつて、其の熱烈なる責任感に假令教官たりとも規定違反の行爲を默視し過す事は出来なかつた。其の恭順の態度は實に優なるものであるが、職責を全うする決意は炳乎として顔色に顯はれて居る。遂に翁の赤誠は之等教官をすら納得せしめたのである。

當時の學生は今の者より稍年齒が進むて居た様であるが職員に準して中々元氣者であつた。そして無邪氣で茶目氣もあり、悪戯行爲も少くなかつたのである。月に浮れて柵を越へて奴鳴られたり、果樹に攀ち登つて曳き降されたり、ならざる所に放尿して追躡されるなどの滑稽は珍らしくなかつた。然し酔つて門限に後れても正門を叩けば直に開いて之を勞るの雅量と、寒稽古に遠くから通ふ者の爲めに茶火鉢を供して犒ふの親切とを持ち合せて居た翁は實に慈

父の如き優しいものであつた。職員に病むものがあれば具さに病状を尋ね、自ら藥草を求めて試用を薦むるに、名醫もあり進歩せる醫藥もあるが其れでもなほ思はしくない場合には是非之れを試みられたしと熱心に曾ての經驗を語つたものであつた。年を経るに従つて鬚髯彌々白さを加へてからは流石に不用の翁にも甚暑酷寒は全々無關心であり得なくなつたらしい。吹雪の荒るゝ夜半孤燈を掲げて眞暗な構内を巡回する時白髯の下より吹き出す氣息には可なり努力が見えて居た。老ひし身の一朝學校に事あるの時果して尙ほ役立ち得るや否やが翁の心中密かに淋しい惱みであつた。

或る正月二日の早朝元氣な聲で我が支關を訪ふ者があつた。見れば異様の服裝した秋山翁が氣息を跳ませて佇立して居たのである。聞けば三里もある別所まで駆け足續けで二時開いくらを以て往復したのであつた。莞爾として此の分ではまだ學校の御役に立ちさうですと、涙なしに之を聞いては居られなかつた。

翁は劍道を能くし坂田流棒術の達人であつた。武士的性格の翁は時勢の漸次輕佻浮薄に赴くを悲み、學生の健實なる氣風を養ふには武道を奨勵するにありとなし、常に職員にも學生にも之れを説き、道場に氣合ひの聲の聞ゆるを樂みとして居たのである。

斯くの如く翁の人格は其れ自ら人を動かしたのである。秋霜烈日の鋭さは眞に人に迫るものがあつたがまた温容恭順實に敬すべき所があつた。本校は幸にして翁を煩はす一朝

の大事は遂に起つた事がなく、翁十年の巡視生活は一見甚だ平凡に終つたのである。然しながら此の平穩無事の経過こそ翁の人格に因る所勢からざるを思ふのである。

秋山翁逝きてより今年十三年、今其の人を偲ぶ時なほ生けるの感がある。時去り人變つては翁の印影稍々薄からむとす。之れを惜むの餘り拙

浸湯酸人工孵化法の實用化に就て(二)

愛知縣八名郡丹着村 柿田 國三 郎
紹介者 野澤 泰治

大正三年六月中旬第八回目の試験は第三回の失敗に鑑みて其の方法を第七回目に行つた方法と其の他に鹽酸七に湯三(湯は二百度位)を混入した區を作り實驗したるに産卵後經過時間の少なきもので湯を混入したる區に於て特に一區優良なるものが現れた、品種は黃石丸であつたが三日間に亘り發蟻歩合 80.100 を示し其他は種々優劣ありて五六日間に亘り發蟻し最も長きものは七日間に亘りて發蟻したものもあつた。

黃石丸の發生した蟻は三日目に南設樂郡作手村大宇高根菅沼定吉氏に渡し、飼育した結果發育良好にして完全に營繭した、同氏の話によると收蟻後も尙發蟻したりと云ひ歩合は正確には判明しない、因に菅沼氏は地方養蠶家の中で第一の該飼育者である。次に同業者の南設樂郡東郷村大海天野清四郎氏 此の期の試験中に視察に來り同年八月中旬より研究者である。同年七月中旬二化性越冬年種につき第九回目の試験を行つた

技を省るの餘裕なく、翁の面影を像りて碑としたのである。之れを會て翁が居所として居た元巡視詰所跡に建つるを得たことは幸甚とする所である。

此の碑の製作に當つて小島鐵工所 向山石村店及榊屋組の勤勞的好意ありしを申述べて置く。

即ち鹽酸液を華氏百度位に温めたものと鹽酸七對湯三、鹽酸五對湯五(湯は華氏二百度位)を混入したものを産卵後八時間と十時間を経過したものにつき數十分浸酸し後清水に浸して卵を洗滌したるものと、せざるものとを比較したるに洗ひたるものは幾分臭等も少なく何となく心持ち良きを感じ稍良好なる様に思はれた然も一般を通じて前回よりも良好にして發蟻歩合 70.100 が最優等である中で鹽酸七對湯三を混入したるもの三日間に 80.100 の發生を見た、即ち水混入の液、鹽酸濃液は冷液より勝る點が感ぜられた、又蠶卵は大部分臺紙面より脱落せしが水及湯の混液には脱落割合に少なく臺紙面に附着するもの多きを見るに至つた、勿論卵の取扱ひ上臺紙に附着して居る事は極めて必要である。同年八月中旬二化性越冬年種につき第十回目の試験を行つた即ち浸酸するに當り第九回の方法中鹽酸七對湯三液を標準液として液温を華氏百〇五度百十度百十五度の目的温度に區分し又洗濯用桶

台灣とはいかなることか、いつの頃から稱へ出したか

小林 貫一

或暑中休暇であつた。昆蟲學教室のM農學士に引率された、十日間許る大平山に昆虫採集に行つた。その歸途シヤングンといふ蕃社の警部補さんの家に泊つた。丁度警部補さんの家には上海から單獨で蝶の採集にやつて來てゐたシヤナイグーといふ獨乙人が泊つてゐた。警部補さんもその奥さんも日本語の一つも譯らない獨乙人にはすつかりもてあまして困つてゐた。其の晩警部補さんと獨乙人と一緒に夕飯を食へた。夕食が済むと獨乙人はノートを出して日本語を教へて呉れと英語で話し始めた。「お早う」、「水を下さい」、「有難う」……等を教へてやつた。そのうちに基隆から台北驛に着いたが台灣には英語を話す人が居らなくて困つた

の臭氣多きこと、發蟻が遅々となる傾向ある等面白くない點ある様に考へられた、而して洗滌したものと雖も臺紙に多くの酸氣を含有し居て臭氣が甚だしい點を高橋吏員(蠶業取締所新城出張所吏員)に話したるに洗滌に際して微温湯を用ひたらば如何とのことであつたので後に此方法も行つて見た。此の度の試験中に同業者北設樂郡東郷村山和十氏、八名郡丹着村日吉原伊之助氏等其他三人の人が實地視察に來られて益々同業者の注目する處となつた。

翌日その獨乙人はビヤン鞍部を越え、霧社を経て、新高山に登り、八通關を越えて、花蓮港に出て上海に歸へると云ふて立ち去つた。

一書に曰はく「水の曲れるを灣といふ。灣上樓台を築く。因て稱して台灣といふ」牽強附會もこゝに至つては極まつてゐる。台灣が灣といふ名から起つたのではないことは、明末に台灣と書かずして、臺員または大員と書いたのでも知れる。するとまた員の字に拘泥して、さては列子の渤海の東の山名に、岱與とあり員嶠とあるところの岱と員とが、臺灣の名の起源であらうといふ。然るに、明の初めには、大宛と書いてあるが、これも亦字面に捕はれた説であることを知るべきである。

坪井博士の説に、西域の國名に「大宛」といふものがあるが、これは支那人が「外國」といふ意味で名づけたものであるとのことである。然るに台灣を大宛といふのは、必ずしも外國といふことでもないらしい。これは矢張り土着人の名稱の發音を漢字にうつしたものであらうと幣原博士が云ふてゐる。

村上博士の「日蘭三百年の親交」にバタバヤから派遣せられた、和蘭艦隊が、一六二四年八月に台灣のユタワン、即ち今の安平の地に來て、こゝに商館を開き、ゼーランデヤ城を築いたとある。そこで台北大總長幣原博士がこの記事の根據は、何によつたものであるかと同博士に照會して見たら、同博士は蘭人の台灣占領前後の文書に、ゼーランデヤ城を、築いた地をタユワンと記してあるから、タユワンは安平の地の土

名であらうとの解答であつたといふ。

幣原博士は土名といふよりも、安平一帯の地に住んでゐた、種族の名であらうといふてゐる。全体台湾の蕃族名にワンと稱するものが甚だ多い。マロン、マリコロワン、ガラワン、カウワン、チカソワン、カネトワン、マカリワン、タロワン、ポタンワン、パイワン等數へ立つれば限りもない。タイワンもその一つであつて、たゞそれが支那から来る船の到着地に居つた爲めに、早く支那人に知られ、それから一般の名とせられるやうになつたのに相違なからうとの事である。

日本の織田信長時代に、ポルトガルの提督リシヨウテンが、海上から台湾の見取圖を製して、これを世に公にした。その地圖によると、台湾が三つの島になつてゐる。さう見えたのであらう。最南の島の名を Lequeo pengueno としつゝある。支那の「小琉球」といふ名の翻譯である。中の島は Iha formosa とある。美島 Beautiful island といふ意味であつて、美しく見えたからか名づけたのであらう。最北の島は小さく書いてあつて名がない。つまり當時の台湾は支那では小琉球といひ、西洋では Formosa の名でこの後に知られることになり、さうして我が國ではどうかといふと、タカサゴといふ名で稱へられることになりつゝあつたのであらうといふ。

もなく、一向目當てがなかつたので、そのままその書を持歸つたものと見えて、今頃に前田侯爵家に傳はつてゐるといふ。

然らばそのタカサゴと云ふ名はどうして起つたのか。多くの書物には、「高砂の浦」の美景になぞらへて、附けた名であるといふ。Formosa は、美景から稱した名であるが、高砂、一に搭伽沙古はさうではないらしい。これは矢張り、タイワンと等しく、土蕃の名稱ダコサン社の發音のまゝなのであらうと幣原博士は云

續・異端の目(農事閑談)

蕉

異端の目、も續くる事二回。この邊で一才横路に反れて農事閑談と洒落る。但し筆者は大方の本紙の讀者と同様、蠶室内に蟄居する日は多くとも一般農事に關しては盲目同様である事を白狀する。

牛、馬、驢、カクテル、一台の馬車に牛、馬、驢をそれに驟まで加へると宛然、動物の展覽會見た様なものだが。だからと云つてこれは一台の馬車にこれ等の生物を一度に載せると云ふ意味ぢやない。一台の馬車を牽くにこれだけのゲ、モノが要ると云ふ意味。
「何が彼れ等(農民)にそうさせたか!」
滿蒙と名付くる處、砂漠地を除いて殆どか重粘の埴土でそれが道路と云ふべきものを全然持たないから……」
説明は免御いから昔の腰折れを恥かしげもなく曝け出して責を塞

ふてゐる。一般に認められてゐるのは、今日の高雄、即ち支那人が「打狗」の字をあてたタカサゴから起つたことになつてゐる。一説には今日の淡水に、タコサング、即ち支那人が「卓高山國」の字をあてた蕃族が居つて、その名稱から起つたのであらうといふ。
佛人 George Palmanazar は Formosa を支那人はバカンド(バカン北港?)、土人はガット・アヴィア(美しい島の意)といふと書いてある。(台北帝大總長夜話) (終)

六つの馬、たけれど動かぬ空馬車のぬかるみ深き満州の路かな。
愛と、經濟と
慈愛は窮極に於いて經濟的な反面を現すと云ふ事。一頭の馬一匹の牛を馱するにも手綱一本、鞭一本を手放す事の出来ない日本人は、タツタ一本の鞭と、懸聲だけで六頭の牛馬を完全に制御する支那人に及ばざる處、遠しと云ふ話、
然し、日本では一台の馬車に六頭の牛馬は要らぬよ! と云はるれば筆者、黙つて引込む。

序手ながら満州では畜耕の場合に必ず馬二頭、又は牛二頭等と組にして使用するがこの場合も使用者は一人で誘導者をつかぬ。
萊蕪の種
先輩、小見氏來滿の折、丁度、播種時であつたが、氏を一番驚かせたのがこの萊蕪の種蒔き、

覆土一寸五分!
紫蘇も、人参も、と云ふ譯。種子の直径の二倍とか三倍とかつて云ふ標準を聞いた事も教つた事もある様だかと笑つた事だ。

農業移民!と云ふ聲は時節柄蚊の泣く聲よりもウルサイ蚊、渡滿最初の年に白菜だけでも満足に發芽させるか何ふかと云ふ事が心配される。
高粱、粟、大豆の播き方
御講義仕る心意はサラ、サラ御座らぬが、萊蕪の種子の一條を延長して……」
要するに、土壌面を耕起するのと、作條をつくるのと、播種と施肥と覆土と最後の鎮壓とを一作業として同日に同時に行ふと云ふ譯。だから農民の春はペラ棒に忙しいが、土壌水分を少しでも逃さない爲には唯一最上の途である。

農業移民!をする爲には斯ふしたドライブアーミングの豫備知識を充分與へる必要ありと、マ、よつて如何か!
猪も杓子も無駄には飼はぬ
何處の國に行つたつて杓子に飼はれる奴はあつても杓子を飼ふのはさうザラにあるものぢやないが!
昔満州のアル御役所の人達が最初の農業移民者に對して満州ぢやドノ支那人だつて豚を飼はぬのはないんだから君等も大いに飼養し給へとの御托宣よろしくあつて飼ひも飼つたり、處が、一ヶ月経つたか、たぬに豚公の餌食がないと云ふ次第、こんな管ではないかと御本家の支那農家の方をヨクヨク調べて見ると豚の飼養数は勿論牛、馬の頭數まで全部その農家の所有耕地面積、家族數等と一定の比率が保たれて居つて一頭の

無駄もなければ余祐もない。それよりもアル作物の作付面積はその家のアル家畜數によつて決められて居ると云ふ次第。
例へば馬一頭に對しては馬飼を得るために是非とも一町歩位に相當する粟の耕作を必要とする云つた次第。豚の頭數は支那人の常食とする高粱の糠を主とするために家族の數に關係があると云ふ具合に!
勿論、その移住者諸君によつて飼はれた豚公はモノがモノだけに喰はれたり、賣られたり、その後は筆者も知らぬ。
トマトとメロン
満州のアル邦人農業先覺者がトマトの促成栽培に成功して見事、一ヶ年壹千圓以上の實收益を擧げた。そこで乃公、大偉張りで
「支那人も白菜とか牛蒡とか云ふものは上手に培れるが、一寸斯ふトマトの促成栽培なんて高等園藝物ぢや敵はねえだらう!」と、
處が筆者の處の支那人が曰く、
「そんな事は何でもありません」と云ふ譯でその方法を聞くと、「成程支那人は貧乏だから温室とか、フィルムとかは出来ないけれどトマト位の促成用には植木鉢に貯て晝は家の南側で陽にあて、夜は温室の上で保温しますから、日本人よりも經費が少なくて立派な奴を早く成らせませう。」

此處で筆者の高からぬ鼻がグンヤリ、その音かトマトの潰れる音に似て居たともマサカ書けないが、斯ふした理由もあつて、當今、筆者等の喰べるマスクメロンが一ヶ拾錢から拾五錢、何と諸君、コレが真正正銘のホン物ですぞ!

農閑

早春の農夫達の生活はべら棒に忙しい。然し高粱の第一第二の除草、培土が終ると農民にとつては忘れられない楽しい農閑がある。アチ、ウチに草芝居の小屋が建てられる。遠近から集る老若男女が朝から日の暮れるまでをこれ等の観劇によつて楽しむ有様は外見にも羨しい位だ。端午節の當日等も一家一同の擧つて楽しむ日だ、前日には豚肉、野菜等の市がたつ、

街路の兩側に四五十頭の解体された豚の並べられるのはむしろ凄惨の感じもするが……。

端午節當日——

蠶漫語 その二

篤 之

北海道、青森、秋田、石川、お、何んと涙ぐましい事實を想起させる土地であろう。そしてウント離れて福岡と吾等が先輩の血みどろになつて獲得した或るもの現れである。どこでもよい仲びよ。苧びこれ。

二十年の時日がもたらした御土産だ、それにしても官界生活のなやましさよ。かく言ふ拙者も何度決意したかわからない。クリンヒットを放つて溜飲を下ろしたいと思ふことも再三にして止まらない。各地に主きをなす各位の榮達を祝すると共に待球主義的自重に満腔の敬意を表するものである。

○ 昨年来各地に繭検定所が設立される。私の縣でも從來蠶業試験場でやつた事業を今年から獨立せしめて

繭検定所とした。繭の検定取引は理想として尤も面白いものと思ふ。併しながらその検定法の修正を必要とする。検定と言ふよりも格付法の制定が必要だと思ふ。今の様に解舒時間一分を争ひ、絲量に〇、一匁を争ふ必要が何處にあるか、それよりも或る程度の範圍、それは解舒絲長、絲量、解舒時間を綜合して定めたものとし、その中の一要素に欠陥があるときは一格下すと云ふやうな、丁度生絲の格付の様にしたものが表はれべきである、かくすると繭の値幅も出来、それが直ちに製絲經營に應用されるやうになる、繭の検定所は斯様な趣旨のもとに研究を続ける使命を持つてゐるものに考へられる。

○

近頃又しても養蠶經營の經濟化が叫ばれて居る、愚の至りだ、就中小養蠶地方に於いては尙更のことだ、その地方は小養蠶をなすがため繭の品質優良、絲量豊富なのである、併るに徒に飼育法の經濟化を計ればその特長は全然無視される。そして残るものは勞力の過剩と繭質の悪化のみである。農村の經濟化は過剰せる勞力を倍加し、徒らに徒消する時間をつくり、而して農村に欠乏せる金の流出を倍盛んならしめることにならる。寒心すべきことだ。但し過剰の勞力によつて尙その經營を大にするか又は他に勞力の消費方法を考へてあるものは例外である。七月一日稿

C君の長風呂

S · Y

私の友人にCといふ男がある。今

年の四月U市の専門學校を終えて久方振りに横濱の叔父の家へ色々の用件を帯びて出掛ける事になつた。

中學から専門學校と學校づくめに束縛された生活から遊離して何の屈託もなく、幸多い希望と自由の天地を翔けめぐる事の出来るいとも朗かな気分は季節そのまゝの青春であつた。なればこそいとも長閑に四時間の長風呂が出来たのであると私は羨んでも見えた。

全く久しぶりのお客といふので叔父母はいふまでもなく、恰度娘盛りの二人のお嬢さんは男性的でスマートな彼を心から優遇したことは無理からぬ事であつた。

此の家は大通からは相當に離れた青木町の小高い静かすぎる位の土地に有る。風呂場へは少し遠いし途中は夜は相當に暗い。いつもは家で風呂をわかつてあるのだが珍客といふので街の風呂場へ案内された。案内者は二人の美しい娘さんである。案内されてゐるのか用心棒をつとめてゐるのかはわからない。

C「女の人達と来たたら長湯でヤリキレなよ」

娘「田舎の人は長いけど都會の人はそんなことありませんわ」

C「サア何うですかねやつぱり……」

娘「田舎の男の人よりも短かいかもしれなわよ」

C「ちや今夜は何つちが長い短いか早く出た方が待つことにしませよ」

さあ皆さんCと娘さんと何つちが長湯をしたと思ひますか。Cは勝ち氣の男である。でも田舎の汗を流さ

ねばならぬ。今迄ボヤ／＼としてゐた髪を洗つて分けてサツパリさせやう前かも田舎者の名譽を挽回せねばならない面目を改めねばならぬ。だから快く赤裸々の自分を抱いてくれる湯桶をスピードアップで出ねばならなかつた。入浴二〇分間。着物も着、髪もキレイになつたので番台の側から連れ戻された娘さん達の存在をたしかめて北更笑むたものである。直ぐには歸られそうにもないので、そこに積み重ねてあつた新聞を読みはじめた。斯うして待たされる焦れつたさを紛らはしてゐた。一〇分、三〇分、斥候にも出たがまだらしい。四分、そして一時間、再三の斥候も空しく敵を見ることは出来なかつた。待つときの一分間は何と長い事か。用もない古新聞も大部讀んだ。早い方が待つて、呼んで一緒に歸る約束だつたし、まさかからかふ積りでもあるまい。女湯の方まで行つて探して呼ぶにもならず、その中に番台の男は怪げんな顔をする、といつてこつちも落着けないので番台の男に聞いて見た「二人の娘で一人は洋服を着てゐるんだが」けれども要領を得ない「さつき黒い洋服の人は歸りましたが……」この邊はU市あたりと違つて洋装でお風呂へ来るものが多いんだなあなんて變に余計なことなんか考へたりした。

誠に氣まずい思ひで番台の位置から硝子越しに二人の影を探さねばならなくなつた。みんな同じ様に丸く白い形が眞白くたちこめた湯氣の中に浮いたり消えたりしてゐる。氣のせい二人共まだ這入つてゐる様だ、何て長いことだらう。一時間半

二時間、斯うなると何うせ待つてゐるんだからと意地も手傳つてもし二人共歸つたにしろその中に迎へて来るやうなものだと臍を決めて仕方なしに新聞を片端しから讀んだ、十日前迄の新聞を讀んだ。

三時間。商店の小僧連中が來はぢめた、彼もさすがにたまらなくなつて歸る事にした、來た時はたしか八時だつた。そして今は十二時が十五分前である。

一人ポツネンと狐につまされたに歸つて來ると家はもう消燈されてヒツリとしてゐる。省線の電車のポーツと云ふ音がねむさうに聞えて來る。彼は聲高に叫んで戸を開けてもらつた。

「まあなんて長風呂、あきれたもんですわねえ、レコード時間」妹娘が出て來た、

「ヤリキレない、黙つて歸るなんて」彼。

「まあ、あんまり早く上ると失禮と思つて三十分で上つて貰方がゐらつしやるかと更衣所を見ただけで着物は見えませんし、髪を綺麗に分けた方は新聞を見てゐたやうだけれど、貴方は見えないでせよ、だから之は逃げられた、卑怯だと思つて二人で歸つたのよ、歸つて見るとまああつまらない家にも居ないでせよ、きつと何處か歩いてでもゐらつしやると思ひ余りおそくまで燈をつけてゐると物騒と思つて寢てしまつたのです。おかし

いねえ」
姉娘は妹を振りかえつた。
「ワツハ新聞を見てゐたのは僕ですよ残念ながら見遣えられちやつた

「ホント。今だつて見違ひさうでしたの。そんなに綺麗になつておらつしやるんですもの」妹。

「ナアんだ。姿や着物ばかりに覺えてくれないんですね、田舎者はだし抜かれちゃふ」

「まあそんなこと。でも濟みませんでしたわねえ。」と遂々二人はあやまつてしまつた。

バラ／＼になつてゐた髪を綺麗にしたばかりに四時間入浴のレコードを取られたのは残念だつた。矢張り元のまゝの姿でゐれば良かったのにと淡い哀愁をさへ覺えた若い彼であつた。

翌朝になつて勝氣の彼は「娘の教育が悪い」とサンザンにあたられた叔母こそ、いゝ迷惑であつた。勿論心安だてからではあるか。

扱いつたい何つちが長湯であつたか。どつちでも良い胸の血潮高鳴に若人のみが味へる温かいそしてフレッシュな春の夜の入浴ナンセンスではある。

「僕の親戚と來たら娘ばかりだからヤリキレない」といふのが彼の不平なのか、辨解なのかそれとも、羨しがらせなのかわけのわからぬ結論である。

月見草に寄する思出

亞 狂

(一) ポーン。ポーン。微かな音その都度闇に白く微笑む様に浮び出る優しき花よ。露に耐へかねて傾いた

花瓣から淡い星の光が銀砂の様に零れるのでした。渡船に大江戸の名残を僅に止めた多摩河原です。やつと霧れ間を見せた梅雨の空に燦々星二ツ三ツ静寂の裡に無言の囁きを交わします。數万年、いゝえ數千萬年の昔からいゝと優しい眼差で下界の果敢の陽炎の姿にも似た人々の變遷を眺めて來た事でありませう。數億年の歴史をもつ宇宙より觀たならそこに住む人の子の運命等一瞬の價値だにないでせう。でも短きを一期とする人間の齎めきは彼が一瞬の短とするも我に數十年の思あり僅か一期の間とするも數百年の思あらん事理に於て無い事ではありませんでせうに。

(二) 私が母校二年生の夏の事でした。東北の工場に校外實習を了して歸省の途次小田原から新庄へ旅した事がありました。鳴子温泉の近くの驛、夕陽薄れ行く野の景色を車窓から眺めて居た私は思はず聲を出して叫び度くなりました。満目唯一面黄色の原、私の大好きなあの清楚な月見草で一面なのでしたから。微かな花粉の香が静かに渡り來る野風に送られて車窓に迫つて參ります。私は思はずも次の豫期しない驛で下車してしまつた。そして何度かの廣い野原をさまよひました事でしたか。月が山影にかくれる迄も。露にしとどに濡れ乍ら。

(三) 南朝の遺跡に富む紀南の地。流れ静かに水澄み渡る紀ノ川の清流。月余に渉る三年生の校外實習を私は此の地の工場にさせて頂いたのでした。「先輩とは親と見貴を兼ねた様なものだ」私は母校入學當時の生へた寮長からこんな話を聞きました。私は此處に來て初めてその言葉の眞實を沁々知る事が出来ました。いいへ、見貴だつてこんな事迄は等

思はれる事がありました。有難いものは實に先輩です。文字通り到れり盡せりの御世話を受けて十二分なる實習の目的を達したのでした。二人の大先輩は蔭に陽に巨細判らざるなく指導と世話を盡くして下さるのでした。工場の實習をしながら遊山にも行つた様に過した事でした。遊山と云つては或は語弊がありませうがそんなに楽しかつたと云ふ意味です。朝早く先輩と一處に起きいで一日精限り働く事に無限の興趣を覺えたのでした。此も先輩の計らひで工場の事等碌に未だ分らなかつた私が一工場を委せられ實習生なんて事を全然忘れて了つて二ヶ年間に工場の一員となりすまじ人並に他工場との成績さへも競つたものでした。勿論満足な事等出来ませんでした。後で考へると冷汗を催す程のものでした。こうして長い管の實習を殆んど一瞬の間に過した私がこの間の経験が後年どんなに役立つ事でしたか。又私が後年卒業後會社に入りました時後から來る人々に満足な御世話も出来ないう御氣遣に思ふ時つく／＼二大先輩の御情けを今更の如く感謝したのでした。此の工場の裏は紀ノ川の河原になつて居りました。

一日の仕事を終つた工女が岩の上から美しくいふフォームをなして水中に躍り込むのでした。巧な抜手またたく間に下流遙に泳ぎ去ります。山國に育つた私は水に泳ぐ事さへ珍らしいのに此の絶妙なる技に只々感嘆の聲を發する許りでした。いゝえそれより私を喜ばして呉れましたのは河原一面に咲く月見草の花でした。夕方仕事を終つてからこの河原の花の中に寝ころんで清流の音に何度耳を傾けた事でしたか。私は此以來月見草を見る毎にこの紀南の地を思ひ此處に思出に浮ぶ時清楚な白い花が面影に浮ぶのでした。いゝえそ

れ許りではありませんでした。名残つきせぬ此地を去る時見送りの誰かが車窓から投げ込んで下さつた花が思ひがけなく私の大好きなこの一東の花でした。

(四) 卒業と共に私は製糸業の發祥地諏訪へ志しました。スリ輪の廻轉がとまり工女が歡聲をあげて出て行きました。工場の中には闇が迫つて管理台の上の鈍い／＼五燭の電氣が僅にぼんやりあたりを照して居ります。

仕事が終わると夏でも眞暗になるのでした。電燈を灯けないですむ範圍で仕事をすると云ひませうか。工場と工場との狭い空地には殺風景なこの騒音に不似合にも夏にはやさしい月見草が咲くのでした。文字通り勤勉努力、刻苦精勵年移り星變り何度この工場の中の優しき花に接した事でしたか。「石に嚙りついても」この意志は自分乍らいぢらしくも健闘をつづけたものでした。或時は病苦を押して工場に倒れた迄苦闘したとさへありました。決して人後に落ちぬ成績絶對に非難の余地なき行動……かくて彼の社會觀は漸次變つて行きました。何故なら彼が懸身の努力に依つて購れた結果は彼が長年の努力に依つてやつと得た地位を放り統率した若干の部下と共に去らねばならなかつたから。勿等何等彼の罪でなく、さりとて彼の居た會社の故でもなく、全然社會の情勢の故に正直も絶大の努力も厳正なる行動も波瀾の如き社會現象の濤の前には何等彼を支ふる保護物ではなかつたから。それは只會社の波瀾かな時にのみ特異の尊きものであり非常に貴重なるものであらうけれど。

吾に歸つて見渡す多摩の河原漕ぎ下り行く渡し舟、さゝやかな荷をのせて砂原には矢張り月見草が咲いて居りました。此處又けは變らずに何處の地でもいつの時も何万年の昔から今後永遠に續く宇宙の生命と共に。

熊本千曲會だより

南國特有の梅雨が上りきららない七月二日熊本千曲會は總會を熊本市の水郷湖津湖のほとりなる料亭東濱屋に開いた。熊本市在住の諸兄は勿論遠く城南方面よりの來會もあり、折柄校外實習に來熊中の製絲三年の學生二名を加へ總勢十二名で全會員數から言つて出席會員數は五十％に達しなかつたことは幹部の甚だ遺憾とする所であつたが集まつて見ると仲々面白く上田時代の珍談に花を咲かせ、實習中の學生より母校の近況の放送もあり、又各自専門の技術的の議論も盡きないと言ふ様な工合で愉快なことは此上もない。

總會の議題は本秋母校に於ける代議員會に出席代議の選定代議員會提出事項及其他であつて大体左の通り万場一致可決本部へ報告する手續を取ることとした。

一、代議員會出席代議員は父母仙藏氏を推しもしも同氏出席不可能なる場合は同氏より他の會員に交渉し代議員を選任することを一任す。
二、代議員會提出問題は本支部間の連絡に關し從來遺憾な點多き故與施設改善に關し意見を述べること。
三、會議は終り愈々これから懇親の船遊びだ、會長の心づくしで船も用意され、美しい所を二三人待らせることも出來た。狭い船の中でお互に膝を交へ川魚料理に舌鼓を打ちつゝ盃は亂れ飛んだ。丁度日は金峯山に落ち夕燒は照り映え湖面に美しい影を宿し折柄梅雨に増水せる湖面は一段と美しさを増して居る。得意の隠し



藝が出る頃はあたりが夕暗に包まれ船にともず岐阜提灯の光もなまめかしく充分歌を盡して元の料亭に歸つたのは九時頃であつた。それより記念の寄書をなし散會した。

通信

新卒業生の工場生活

九州の日生

先生 其の後は御無沙汰致しまして申譯ありません夏雲峰をなして見るからに暑さうなる折柄皆様には如何御凌ぎ遊ばされ居りますか御伺ひ申上ます當工場に來てから四ヶ月近くになるので五會社式經營の端緒もやゝ掴む

から天恵豊かな九州地方に移轉するだらうと言はれて居る位重要な位置を占めつゝあるのであるから我々も當地方の蠶絲業の特異性を報告すると同時に母校の諸賢も同窓生の諸賢も當地方斯業の發展に刮目せられんことを望んで筆を擱く次第である。(小林生記す)

事が出来ました何時も先生に御教訓を賜はつた經營方針の誤謬非科學的管理法の存在の實際に度々直面する事があり其の度に更生の意氣を以て革新し合理的工場の建設に努力して居ります

倉美義、宮城薫、平山俊雄、小林重男、製糸三年生、三宅勳、伊藤猛、尙最後に言ふが九州地方は母校を距ること三百里兎角疎遠勝ちになることが多く同窓の來往も少い。千曲時報によつて上田附近の事や殖民地附近の報導は手に取る様に解るが九州地方の状況は書く人も居らない爲か殆んど報導がない。或識者の觀察によると近い將來には本邦製絲業の重心は本州の中部

上田より一筆 計上仕り候

本會理事高木三治氏は這般横濱に御榮轉被遊ることと相成候に付き其の送別會を六月二十九日上田公園内富貴に於て開催仕り候

外しか行かない状態です殊に乾煎煮繭に多大の研究の餘地が残されて居り小生等の研究心を増長せしめます九州はさすがに暑く水銀柱は見る見る騰り數日來毎日一〇〇度を突破する物凄さです夜の情緒は又一種風情があります

さわやかなる一夜を惜しみ申し候佐藤春太郎先生に於かれては豫て獨逸御遊學中の所期充ちて芽出度七月二日御歸朝遊ばされ候當日母校よりは蒲生教授京濱在任同窓と共に横濱埠頭に御出迎ひ申上候 先生の御母堂様は此の晴れの御歸朝をも待たで遂御長逝遊ばされ候ことはかへすがへすも御傷はしき限りにてなつかしき本土を踏み給ひし慶びと共に又悲しみの涙新なるものあることを推しみの涙新なるものあることを推し

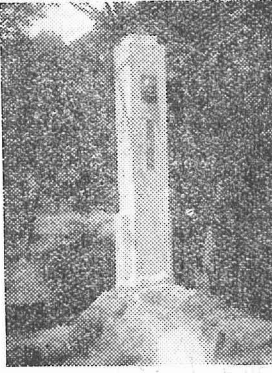
折悪しく當地としては最も用務繁多の時期に付き多少來會者の出脚しを氣遣ひ居り候所同氏の徳を慕ひ惜別の情に堪へ兼ね萬障を排して殆ど全會員の出席を見候事は友誼的なりしの日常も思はれて感激措く能はざる所に候へき げに高木氏に在田氏過去十ヶ年の功績は本會史上特筆大書す可きものと存じ候或時は嚴格なる監督者となり或時は正鵠なる批判者となり又或時は情深きシンパとなり常に公平なる見解の下に虚心坦懐の私心を去つて終始一貫本會に寄せたる犠牲的俸仕に至つては實に涙ぐましきの有之一々枚舉にいとまなき次第に御座候 吾等同人は此の御榮轉を當然祈禱慶賀仕る可き筈には候へ共如上の關係より離愁の情をざる禁じ難きもの有之林理事が開會にあたり別離の情を叙し其言切々腸を断たしむるの概ありしもまことに故ある哉と被存候 一同杯を高く俸げ健康と榮冠とを天に祈りながら初夏の

然る所飛行機祭をあてに上田に入り込み候香具師が如何なる手落ちに候へしか市内中央に於て廻り八寸長さ七八尺に及ばんとするハブを逸走させ市民を驚倒せしめし頗る獵奇的なる事件勃發仕り候警察當局は勿論青年團消防等總動員にてコワゴワ乍他事御放棄被下度候

ら草を分け互を起こし隈無く詮索仕り候ふが此の蛇殿は天に駈けりしか地に潜みしか皆目姿を見はさず事件は後難を孕んで愈々迷宮に入り申し候ハブの毒力はインフアサイズされて百方に飛びいやが上に市民の慌怖心を咬り居り候遂に馬占山の頸の如く六十圓の懸賞と相成り候よしさてさて銷夏ナンセンスとしては余りにグロに過ぎたる話候哉

千曲河畔の月見草も上田の一名物として夜な夜な黄金の唇を天に向け高原の夜の歌を唄ひ居り候晝夜を舍かず逝くもの斯如くして溝々とは流れ去るに此の花は年々焼けたられた七月の千曲河畔を彩り居り候思ひ出深き會員諸兄も有之可くと存じ其の儘を御通知申上候 新聞紙上によれば本年は別つして暑熱酷厳きよし生活戦線の苦闘に配するに此の暑さを以つては第一線の各位の御痛苦の程も察せられ同情の涙禁じ難く候切に切に御自愛祈り上げ候 (七、二五、倉澤生)

至誠の人故秋山義行巡視の記念碑が石倉先生の篤志によつて本館玄關前の元巡視詰所跡に建立され七月二十一日にその除幕が行はれた。碑は高さ五尺幅一尺位の花崗岩でその正面



學校便り 故秋山巡視記念碑建立

上部正面に石倉先生自作の飼育像が刻み込まれてある。(寫眞は此の秋山巡視の記念碑である)

佐藤春太郎教授歸朝

二ヶ年の長い間獨乙に御留學になつて居られた佐藤先生は七月二日に御壯健で奥さん御同伴目出度く歸朝せられた、只今は故郷に御歸りになつて御静養中、來學期からゴールドシニミット教授のもとにて御研究になられた新事實を續著を傾けて學生に教授をなさる筈

製糸科一年生の蠶兒飼育

七月五日に掃立てた製糸家一年生飼育用蠶兒は稚蠶期雨勝ちの天候なるにもかゝらず非常なる好成績にて七月廿七、八兩日に上族七月三十一日に收購一生に一度の蠶兒飼育も終りを告げて同日午後解散した

菅平へ飼育分場

養蠶科原蠶部では一化性の夏期飼育を計畫し菅平へ飼育分場を設置し今年度はほんの試験的に飼育を試みて居る若しも今年度に於て相當の成績を擧げることが出来れば來年度に於ては品種改良の目的を以つて一化性の夏期飼育を行ふ積りである

養蠶科一年生の實習

養蠶科一年生は六月下旬から七月一杯を休み鋭氣を養つて居つたが今度八月一日から秋蠶飼育を行ふべく實習を開始した

地方蠶況

七月初旬から中旬にかけては毎日の雨降りそれが濟むと今度は四十何年振りかの暑氣毎日の様に九〇度突破此れではお蠶様も暑氣あたりとやらで相當に參るだらうと思つたがそ

うでもないらしいとんだ蠶況良好の様子それに繭價は段々よくなつて來るので農家は先づびといきと云ふ所だらう (S.K.生)

叙任辞令

上田蠶糸専門學校教授 林 貞三
九給停下賜
上田蠶糸専門學校教授 金子 英雄
補上田蠶糸専門學校生徒主事
公立實業學校教諭 曾山 直高

弔慰金募集廣告

豫而御病氣の處養生不相叶田中氏は六月卅日、矢島氏は六月十日、土田氏は三月廿八日遂に御逝去被致候間此段本紙上を以て及御通知候也

弔慰金

金五拾錢也 桐澤 富雄
金壹圓也 荒井 猛 神戸敏夫 森西康允
金野殿保 横山英一 山崎 壽
笠原重雄 居相泰市 稻田 實
坂路善一 櫻井卓三
金貳圓也 福島銅治郎
合 計 金拾參圓五拾錢也
遺族贈呈料 金拾參圓五十錢也
昭利七年八月十五日
上田蠶糸専門學校千曲會

上田蠶糸専門學校

千曲會

昭利七年六月五日ヨリ年功加俸年額百四十五圓下賜
公立實業學校教諭 林 周藏
七給俸當年俸千五百六拾圓下賜

弔慰金募集廣告

本會々員神林正一氏(舊姓宮城)(蠶十七)豫而御病氣の處養生不相叶七月廿八日遂に御逝去被致候間此段本紙上を以て及御通知候也
追而有志弔慰金は來る九月末日迄に取纏め遺族へ贈呈可致候間便宜上振替口座東京第四三三三四一四一神林氏弔慰金の旨御明記の上御拂込被下度候
昭利七年八月十五日
上田蠶糸専門學校
千曲會

故岩田重左衛門氏

金五拾錢也 桐澤 富雄
金壹圓也 荒井 猛 神戸敏夫 森西康允
金野殿保 横山英一 山崎 壽
笠原重雄 居相泰市 稻田 實
坂路善一 櫻井卓三
金貳圓也 福島銅治郎
合 計 金拾參圓五拾錢也
遺族贈呈料 金拾參圓五十錢也
昭利七年六月 日
上田蠶糸専門學校千曲會

編輯室より

千曲時報創刊以來先月號(第廿八號)までに編輯委員の外に特に御寄稿下されました方々の御芳名並に掲載回数は大略次の如くであります。

茲に厚く御禮を申し上げます。
二四回— 碓氷茂君、一四回(千曲會庶務記事の外に)— 倉澤美徳君。
二二回— 松村季美君、八回— 小林貫一君、五回— 湯川秀夫君、岡部康之君、岡村源一君、四回— 針塚校長殿、平田清親君、山口定次郎君。
(岡村一君)、三回— 池田正五郎君、石原石司君、高島秀夫君、窪田潤君、二回— 黒岩覺君、中會根長男君、小林啓介君、田中亮君、柏倉豊吉君、矢澤茂登一君、淺井春雄君、金崎眞英君、其他一回宛— 約三〇名(芳名略)

寄稿者總數約五〇名
以上から千曲會員總數に對する寄稿者割合を出して見ますと約四〇%となり本誌に投稿せらるる人の割合が非常に多いので今更驚いた様な次第であります。これには編輯方法其他に缺點もある事かと想像されますが併し本誌はかく少數の人の獨占する機關ではなく會員全體のものが利用すべき筈の機關であります。就てはもつとく色々の方から原稿を頂きたく存じます。調査研究論説はもとより消息漫談等何でも結構です。殊に蠶糸學雜誌へ出されたい小論文(成るべく短篇なもの)御寄稿を歓迎いたします。

本誌は毎號八頁宛ときめて居りますが若し投稿者の非常に多くなつた場合には豫算もつと増加し頁數を多くしても差支へ無いかと存じます。何卒今迄より以上一般會員の各位から玉稿を御寄せ下さる事を切にお願申して止まない次第であります。

次に編輯者のかはる前まで毎月千曲時報の一異彩であつた所の上田だよりや學校だよりは主としてY.K.生(倉澤美徳君)によつてまゝとめられて居りました。千曲會の事務や人事係などで随分御多忙であらせらるる

中に毎號御執筆下されました事は讀者一同感謝する所であります。尙ほ今後とも本誌を育てて行く上に同氏の御手を煩す事が極めて多からうと存じます。茲に本誌を通じて感謝の意を表します。(K.S.)

廣告

肅啓
暑氣嚴敷候處皆々様彌御清穆賀上候
陳者小生儀合資會社千葉商店に入り蠶糸機械販賣業に従事仕候以來幸ひ大過なく今日に至り候事は先輩各位並に同窓諸兄の陰に陽に御高庇を賜りたるものと深く感佩罷在候就而今般千葉商店後援の下に左記の處に獨立開業仕候へば從來に倍し一層御愛顧御引立の程懇願致度母校の名に依り諸賢の御指導と御鞭撻の程賜度奉希上候
猶下名店員宜しく御願申上候
敬具

昭利七年七月
高崎市赤坂町七六
坂路商店
坂路善一
下斗米尙次
齋藤清次
深澤武夫
山部小平太
高田貴企
上田出張所